

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➢ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➢ 会員寄稿記事	3
➢ 研究・事例紹介	6
➢ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	10
➢ JRRN 会員募集中	11

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー「水辺の小さな自然再生ホームページ」制作中

小さな自然再生に関わる情報交換や交流のコミュニティを構築し、この分野の仲間と裾野を広げるための普及促進活動の一環として、「小さな自然再生」事例集編集委員会及び (一社) ClearWaterProject の協力を得ながら「水辺の小さな自然再生ホームページ」の制作を進めています。



みんなに発案のチャンスがある、手づくり型の自然再生。

実際に何をやるの？
小さな自然再生の魅力と、留意点



【ホームページの利用対象者】

- ① 環境問題や地域づくりに関心があり、小さな自然再生がどのような取り組みかを知りたい人。
- ② 小さな自然再生に取組みたいが、何から始めていいかわからず迷っている人。
- ③ 小さな自然再生に既に取組んでいる人。
- ④ 小さな自然再生を後押しする行政・民間等の方々。

【ホームページの基本構成】

- 小さな自然再生とは？ (考え方を紹介)
- 小さな自然再生の進め方 (留意点などを紹介)
- 事例紹介 (事例集の13事例を含む事例紹介)
- ブログ (関連する様々な情報等を紹介)
- 行事案内&報告 (研修会等の案内と成果を紹介)
- 参考資料 (関連書籍、ウェブサイト等を紹介)
- 問合せ (相談窓口)

本ホームページは来年2月頃には皆様にご紹介できる予定です。もうしばらくお待ちください。

なお、本活動は (公財) 河川財団 の河川整備基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・和田彰)



News & Events



現在制作中のホームページ

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト-11/2(月)・第2回現地研修会@滋賀県 開催報告

2015年11月2日(月)、第2回「小さな自然再生」現地研修会を滋賀県長浜市の長浜市湖北支所及び高時川にて開催致しました。滋賀県長浜土木事務所及び滋賀県土木交通部流域政策局の協力のもと、45名が研修会に参加し、座学+現地研修+ワークショップを通じて「川の水が減ったときの魚の逃げ場所づくり」を主テーマに小さな自然再生について学びました。以下に開催概要を報告します。



座学研修の様子

(1) 事例集を教材とした座学研修

■ 小さな自然再生のすすめ

(三橋弘宗：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)

小さな自然再生の基本的な考え方(定義、進め方、波及効果など)が、事例を踏まえ紹介されました。また、多様な淵の形成事例から、高時川での対策のヒントとなる事例が紹介されました。

■ 水制に関する技術 シェルターづくり(淵)の技術

(岩瀬晴夫：株式会社北海道技術コンサルタント)

高時川の検討課題である「水制による淵(魚の逃げ場所)の形成」につながる技術論として、モノづくりの考え方、水制の種類・機能、淵形成の原理等について、講師が手掛けてきた事例や手書きのイラストを交え、午後のワークショップの議論の鍵となる貴重な講演をいただきました。

■ 高時川における取組み事例 -川の水が減ったときの魚の逃げ場所づくり-

(北村裕二：滋賀県長浜土木事務所)

高時川の瀬切れ時の魚の逃げ場所づくり(水制工)の試験施工の事例とその後の経過が紹介され、午後に踏査する現場のイメージと、川づくりの条件が複雑な河川であるという認識を事前に共有しました。

(2) 高時川の現場研修

高時川における、①既往の水制施工箇所、②ワークショップの検討課題となる箇所の2箇所の現地を踏査

し、河道の状況(河床高・勾配、川幅、河床材料等)、水制の試験施工後の状況、後背地との関係等を観察し、高時川で小さな自然再生を行うに当たっての条件や課題等を議論しました。現地では、瀬切れした水のない川の中を歩き、午前中まで降っていた雨により、ちょうど研修現場に水が到達し水みちができて始める状況を見ることができるなど、貴重な体験となりました。



高時川の現場研修の様子

(3) ワークショップ「瀬切れ時の水棲生物の避難場所を創出するための川づくり」

座学と現場研修を踏まえ、高時川の「川の水が減ったときの魚の逃げ場所づくり」について、具体的な対策内容をワークショップ形式で提案、意見交換を行いました。6つの班に編成された参加者それぞれが、高時川で実施できそうな小さな自然再生のアイデアを出し合い、各班で絞り込んだ最適案を発表した後、講師による総括をいただきながら、目標設定や実現性を含めた全体討議を行いました。**議論の詳細については、12月に公開する簡易報告書をご覧ください。**



ワークショップの様子

滋賀県の担当者より、今回の協議結果を踏まえて、11月13日(金)に水制の試験施工を実施したとのご連絡をいただきました。今回の現地研修会の協力先である滋賀県長浜土木事務所の皆様の川づくりに対する熱意には大変驚かされるとともに、事前準備と当日の運営、そしてその後のフォローアップに至るまでのご尽力に感謝を申し上げます。

本活動は(公財)河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

12月



あの日のあの川 リレー日記 ～第11話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第11話主人公 鴨志田穂高

(筑波大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：茨城県田尻川)

「私の川めぐり拾遺集」

いつのこと？：小学生～現在まで

どこの川？：八溝川、田尻川、小貝川、鬼怒川、那賀川、庄川、高梁川など

筑波大学で『川と人』ゼミの一員になって以来、全国のさまざまな川を目にしてきた。幼少期の思い出も含めて、今日までの川めぐり遍歴を書き綴ってみようと思う。

幼少のころ、夏に父方の実家に帰省すると、決まって近くの八溝川で水遊びに興じていた。県下最高峰の八溝山に端を発するこの川は、山深い大子の自然をかき分けて久慈川へと注ぐ。かつての父親がそうであったように、私もまたこの川で水切りや生き物集めなどを楽しんでいた。中学に入ると川で遊ぶ機会はめっきり減り、身近な川といったら家の前を流れる田尻川くらいのもだった。この川は、住宅街を縫うように走り流路がコンクリートで固められた典型的な都市河川である。流れのない水面を眺めながらの通学は退屈そのもので、ときおり台風の大雨を一気に流し去る姿だけが「ああ、いちおう川なんだな」と思える要素であった。それでも、自治会の方や子どもたちによる一斉清掃が行われていたから、やはり地域にとっては大切な川なのだろう。そんな、川との関わりが薄い中学・高校時代を経て、私は筑波大学の白川ゼミに入った。

白川ゼミでは川を実際に見る機会がとても多い。大学の近くの小貝川や鬼怒川をめぐるところから始まり、夏になると、一つの川を源流から河口までめぐるとゼミ合宿が行われる。年ごとに全く異なる流域を駆ける4日間の行程には、川の魅力が詰まっている。日本屈指の多雨地域を流れる那賀川では、源流を目指して進むもあまりの道の悪さとガス欠で断念せざるを得なかったのが忘れられない。ダム建設の現場をめぐった庄川、歴

史ある街々を見学した高梁川など、流域をまるごと学べる貴重な機会だったとあらためて思う。

地域貢献プロジェクトとして、遠く九州の河川にも赴いた。福岡県を流れる遠賀堀川では、地域の方々が昔の川の輝きを取り戻そうと奮闘している姿に刺激を受けた。長崎県東彼杵町では、町内を流れる彼杵川、千綿川、串川、江の串川を活用したまちづくりに向けて試行錯誤を重ねる日々を過ごした。

そんなゼミ生活の中でも、私の川めぐりで最も多くのウエイトを占めるのは、本ニュースレターでもお馴染みの坂本貴啓さんによる河川市民団体調査である。109水系すべての市民団体を調べあげるといふこの壮大な取り組みに、私を含め多くのゼミ生が同行した。中国地方調査で早朝に訪れた高津川は、これほどまでにきれいな川があるのかと思わせる美しさだった。続く四国地方調査は、個々の川が持つ魅力を感じる旅であった。荒々しい流れで釣り人を掻き立てる物部川、澄み切った蒼をたたえてゆったりと流れる仁淀川、河口付近まで狭窄部の風景が続く肱川など、それぞれがそれぞれに個性を主張していて興味をそそられた。交通の便が悪い北海道では、路線バスまで活用してほぼ全ての一級水系を回った。日も落ちた湧別の事務所で担当の方が暖かく迎えて下さった時には、こんな遠くの川にも日々携わる方々がいらっしゃることをあらためて感じた。レンタカーが使えないという制約のもとでの調査行程はタイトだったが、良いこともあった。中国調査で寝台列車から見る夜明けの高梁川は格別だったし、中部調査では一級河川の最寄り駅で乗り降りを繰り返すという芸当もやってのけた。

思えば川と鉄道の相性はなかなか悪くない。「越すに越されぬ大井川」も今や車窓の一コマであるし、川が切り開いた谷を走るローカル線は一種のアトラクションだ。川の表情はいつも鉄道での移動に花を添えてくれる。一度、博多からつくばまで鈍行で帰るといふ愚行を犯したことがある。カメラがあったので、一級河川を渡る度にシャッターを切ろうと思いついた。広島の本田川から始めて、日没を迎えたのは豊川を渡ったあたりだったろうか。初めは暇つぶし程度にしか考えていなかったが、撮影していくと一つ一つの川の表情がすべて違うことに気付いた。狭い島国にこれだけ個性豊かな川が流れているのかと、あらためて実感した。

早いもので修了の足音が近づいてきたが、川好き川キチ川系男子にして川の伝道師たる坂本さんに言わせれば、私の川の経験値にはまだまだ伸びしろがあることだろう。修士論文を書き上げた暁には、厳冬の只見川にでも足を伸ばしてみようかと思っている。

(次は 有木吾郎 さんにバトンを託します)



朝焼けの高津川



2012年ゼミ合宿 in 那賀川
(右から6人目が執筆者)

水辺からのメッセージ No.79

岡村幸二 (JRRN 会員)

スリーデーマーチ :

日本一のウォーキングイベント～微地形の変化を風と光で感じとる



撮影：2015年11月（埼玉県東松山市・都幾川）

◆川をまるごと楽しむ

東松山市のウォーキングイベントである“スリーデーマーチ”は今年で38回目です。5kmから50kmまでの6種類の距離を全国から8万人が3日間集まり、マイペースでひたすら歩き通します。

◆自然豊かな埼玉県丘陵部

東武東上線沿線の東松山から小川町あたりは、埼玉県のほぼ真ん中の丘陵部にあって低平地と丘陵部が繰り返す変化に富んだ絶好のハイキングコースです。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

研究・事例紹介 Research and Project Report

「水辺からのまちおこしプロジェクト」現地訪問

～「第5回水辺からのまちおこし広場」と「第15回九州「川」のワークショップ in 諫早」

寄稿者：筑波大学白川（直）研究室（所属・JRRN 会員）

東彼杵プロジェクトチーム

1. はじめに

8月の訪問に引き続き、筑波大学白川（直）研究室東彼杵プロジェクトチーム（以下、プロジェクトチームと略す）は、2015年11月13日から15日にかけて長崎県東彼杵郡東彼杵町および長崎県諫早市を訪問した。今回は8月の現地調査に基づいて作成したまちおこし案を『第5回水辺からのまちおこし広場』にて報告した。また、諫早市で開催された『第15回九州「川」のワークショップ in 諫早』にも参加し、活動内容についての発表を行った。この記事では、まちおこし広場の内容および川のワークショップでの報告を記載する。なお、まちおこし広場には、彼杵おもしろ河川団の一員として参加した。彼杵おもしろ河川団とは町内外の様々な主体の有志で構成される、東彼杵の水辺からのまちおこしを応援するネットワーク団体である（図1）。

「彼杵おもしろ河川団」主な構成主体

- 遠賀川水辺館 坂本榮治先生（団長）
- 東彼杵清流会（事務局）
- 東彼杵町まちづくり課
- 筑波大学白川（直）研究室
- 日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
- 国土交通省河川事務所有志
- 長崎県県北振興局河川課
- 古賀河川図書館
- 地元小学校
- 環境系コンサルタント有志

2. 主な行程

3日間の行程を以下に示す。

- 2015年11月13日（金）
 - 14:00 佐賀空港着
 - 18:00～21:00 水辺からのまちおこし広場
- 2015年11月14日（土）
 - 13:00～18:00 九州「川」のワークショップ（ステージ発表）
 - 19:00～21:00 懇親会
- 2015年11月15日（日）
 - 9:00～12:00 九州「川」のワークショップ（ポスターセッション）
 - 14:00～18:00 長崎市訪問

3. 第5回 水辺からのまちおこし広場

今回の会は2部構成となっており、第1部では活動発表、第2部ではワークショップを行った。まず、プログラムを以下に示す。

〈第1部〉

1. 開会
2. 挨拶
 - 河川おもしろ河川団団長 坂本榮治
 - 東彼杵町まちづくり課課長 松山昭
3. 各機関の発表
 - ①「東彼杵の川を活かしたまちづくりの提案」
筑波大学白川研究室『川と人』ゼミ
 - ②「九州の主要河川における堰の高さと息息」
長崎大学水産学部山口研究室
4. 東彼杵町内の河川関係団体の活動発表
 - ①「アユの遡上について」
東彼杵清流会
 - ②「森から川へ海へ」
県北グリーンクラブ
 - ③「休耕田の活用について」
八反田愛護団体

〈第2部〉

5. まちなか再生支援事業の話題提供とまちおこしワークショップ
 - コーディネーター
彼杵おもしろ河川団団長 坂本榮治
東彼杵町まちづくり課 坂本修一
筑波大学 坂本貴啓
6. 総評
長崎県 県北振興局 河川課長 牟田克敏
筑波大学システム情報系 准教授 白川直樹
7. 閉会
東彼杵町議会議長 後城一雄

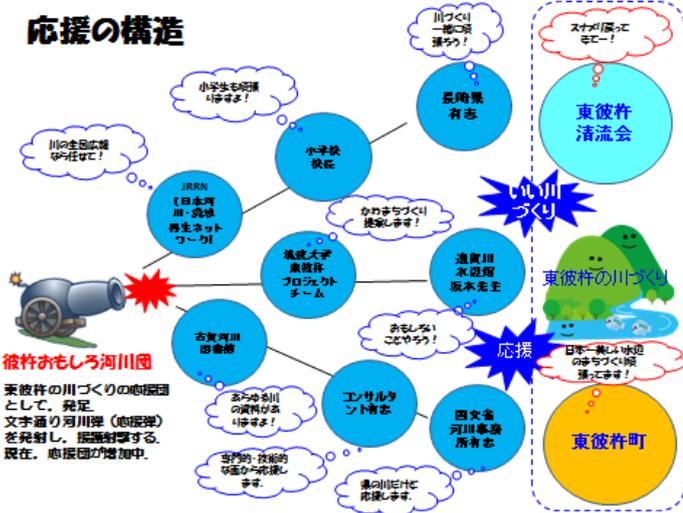


図1 彼杵おもしろ河川団構成



図2 まちおこし案の提案報告

この会は、筑波大学が中心となって、東彼杵町の坂本さんらの協力のもと、プログラムの作成、会場設営等を行った。当日は約70名の方々に来場していただき、町民の方も多く参加していただいた。

・第1部

第1部では、プロジェクトチームの報告の他に、長崎大学水産学部山口研究室の吉田さんによる研究紹介、東彼杵清流会の池田さんらによるアユの遡上に関する発表、県北グリーンクラブの宮川さんによる水質保全の観点でのシジミの活用法についての発表、八反田愛護団体の林さんらによるドジョウの養殖についての発表があった。

プロジェクトチームは、町内の水辺を活かしたという観点からさまざまなまちおこし案を提案した。例えば、人口の多い地区では、川沿いのウォーキングコースや飛び石などの親水性を高める案、あるいは川のお茶屋さん等の人々が川を活かして集える空間などを提案した。一方、山間部や海沿いなど、景色が美しい場所においては、カヌーや立ち漕ぎボート等、景色を楽しみながら出来る提案をした。スライドによる発表時間は25分で、以上のまちおこし案の報告と東彼杵を題材としたテーマソング「東彼杵なつやすみ」のPVを上映した(図2)。作詞、作曲、編曲をすべて筑波大学の学生が行った。この曲は、東彼杵のとても美しい風景の中でたくさん遊び、わくわくする夏休みを過ごして友達との時間を大事にしてほしいという思いを込めて作成したものである。この報告を終えた後、町民の方からは「この案があったらやってみたい！」などの意見が寄せられ、好感触なまちおこし案も多くあった。また、「東彼杵なつやすみ」の方もとても良い反応をいただき、今後東彼杵の小学校3校合同で合唱を行うことが予定されている。

・第2部

第2部は今後、東彼杵の水辺からのまちおこしを進めていく上での目的を明確にするために行ったものである。なお、今回のワークショップは、ふるさと財団のまちなか再生支援事業を活用したいと考えている東彼杵町の来年度の事業計画の枠組みづくりを兼ねている。

最初に東彼杵町と筑波大学によるプロジェクトチームの発足までの経緯およびまちなか再生支援事業についての説明があり、その後ワークショップを行った。東彼杵町議会議員や自治区長をはじめ、町民の方々と直接議論を交わすことができた。

まちおこしワークショップは、屋台形式で実施した(図3)。屋台は、「眠っている資産」「町に欲しいもの」「こんな人が欲しい」「水辺を活かした」「私と水辺」の5つのテーマに分け、これらの話題以外のものについては「よろず」で意見を募った。各屋台にプロジェクトチームのメンバーが1人つき、参加者の方々が好きな話題の屋台に移動してもらった。また、屋台にお菓子、お茶を用意し参加者の方々と楽しく、わいわい意見交換を行うことができた。それぞれの屋台でさまざまな意見が交わされた。「眠っている資産」「町にほしいもの」では長崎街道というワードが多く挙げられていた。「こんな人が欲しい」では、今後東彼杵を担っていくという意味で、若い世代の人が欲しいという意見が多く挙げられていた。「私と水辺」では、主に彼杵川での町民の思い出の場所が多く挙げられていた。「水辺を活かした」では、子供が水と触れ合う環境が少なくなっているため、子供が水で遊べるような場所が欲しいという意見が多く聞かれた。

・水辺からのまちおこし広場を通して

今回の「第5回水辺からのまちおこし広場」では、プロジェクトチームの報告以外にもアユの遡上、水質保全の観点でのシジミの活用、ドジョウの養殖などさまざまな発表が行われ、今後プロジェクトを行っていく上でたいへん勉強になった。また、アユの遡上に関する研究を行っている長崎大学の学生が今回初めて参加し、アユの遡上に関する研究紹介を行った。今回初めて他大学との交流をすることができ、たいへん良い経験になった。

筑波大生の提案に対しても多くの意見をいただくことができ、今後プロジェクトを行っていく上で大変重要な会になったのではないかと考える。ワークショップでは、対話を通じて今まで聞くことのできなかった町民の方の意見を得られた。全体を通して、まちなか再生支援事業の話題提供のための意見が得られ、今回のまちおこし広場は、来年度以降の活動に向けて意義ある時間となった。また、長崎新聞に今回のまちおこし広場が記載された(図4)。



図3 ワークショップの様子



図4 掲載された新聞記事(長崎新聞 11/17 朝刊)



図5 東彼杵プロジェクトの発表

1. 東彼杵プロジェクトチーム（筑波大学白川研究室『川と人』ゼミ）：「長崎県の小さなまちの水辺からのまちおこしプロジェクト」
2. 彼杵小学校：「だいすき！彼杵川」
3. 東彼杵清流会：「アユさんへ 繋がった人達で川をつなげます。元気に川を上ってください。」

また筑波大学は、東彼杵プロジェクトのほかにも以下の2つのプロジェクトについても発表をした。

1. 遠賀堀川プロジェクト
2. 常総水害対策チーム

・ステージ発表

14日のステージ発表では、1団体につき3分の持ち時間で活動・事業発表を行った。

東彼杵プロジェクトチームの発表では、私たちが活動を行っている舞台である東彼杵町の水辺からのまちおこしの取り組み、当プロジェクトが東彼杵町に関わり、「彼杵おもしろ河川団」の一員として活動を行うようになってからの経緯と応援の構造、そして私たちの活動の内容について発表した(図5)。

発表では、東彼杵町の名産物であるお茶をモチーフにしたキャラクター「超時空忍者チャチャマル」やその敵役「悪の化身オソロシカー」の着ぐるみを着用したアクションも交え、観客の目を引いた。

また、当研究室で作成した東彼杵町のテーマソング「東彼杵なつやすみ」のCDを紹介した。このCDはワークショップや全体交流会でも興味をもった方に購入していただき、東彼杵町の認知を広げることにもつながったと考えられる。

遠賀堀川プロジェクトの発表は、福岡県の遠賀川水系の人工河川である遠賀堀川を、学生の視点で再生しようという内容であった。歴史的な価値もある堀川のために、雨水を利用して水を流す構想について紹介した。

常総水害対策チームの発表は、2015年9月茨城県・栃木県において発生した鬼怒川の氾濫水害に、最も近くの大学として白川研究室が行った被災状況の調査・ボランティア活動についてであった。今回ワークショップに参加した東彼杵プロジェクトチームのメンバーも全員この活動に参加しており、発表の際には活動で使用した作業服やヘルメットを着用し、非日常的な状況での活動を分かりやすく伝えるよう努めた。特にこの発表に関しては、九州から遠く離れた地域での活動がテーマであるため、全国からの事例報告として取り扱っていただき、実行委員会に深く感謝申し上げる。

また、「東彼杵ジュニア清流会」として彼杵小学校による発表もあった。彼杵川にアユを取り戻すために一生懸命に勉強している小学生たちの発表はたいへん好評で、発表の時間不足にも負けず、「選好投票」において全体のグランプリを獲得した。

・発表者アピールタイム(ポスターセッション)

15日の午前はポスターセッションが行われ、プロジェクトチームは1日目の発表同様、チャチャマルに扮

4. 第15回九州「川」のワークショップ in 諫早

14日、15日諫早市の中央公民館にて「第15回九州「川」のワークショップ in 諫早」が開催された。本行事は河川で活動する市民団体、行政、企業などが一堂に会し、九州の流域間交流の一環で行われてきた。九州各県持ち回りで行われており、今年で15年目を数える伝統ある行事である。

ワークショップのプログラムは下記のとおりである。

2015年11月14日(土)

1. 開会式
2. ステージ発表(大人の部・子供の部)
(子供たちは発表終了後、子供たちの交流会)

2015年11月15日(日)

3. 発表者アピールタイム
4. 全体討論会
5. 閉会式
- (6.) エクスカーション 本明川さるく

今回、筑波大学白川研究室も発表者・スタッフの両方として参加した。今回の大会で東彼杵町に関する発表は以下の3団体である。

してのポスターセッションとなった(図6)。

最も聞かれた質問は、筑波大学が東彼杵町で活動することになったきっかけを問うものであった。これは、2013年11月に東京で開催された第6回いい川・いい川づくりワークショップにて、東彼杵町の渡邊悟町長とお会いしたのがきっかけである。これを機に東彼杵町での川を活かしたまちおこしの受託研究が始まり、筑波大生による訪問が実現した。

また、質問とは別に撮影をお願いしてくる方も多く、それをきっかけに多くの方と話をすることが出来た。やはり、視覚的なインパクトというのは大きく、人を引き付ける力があるため、今後の活動の参考にしていきたいと思う。

また、東彼杵町からは、プロジェクトチームもお世話になっている「東彼杵清流会」(以下清流会)もワークショップに参加していた。清流会は、新たな傾斜板の開発を行っており、アユが堰の利水板を越えられる仕様を模索している。2015年9月には、実用新案を取得しており(魚類遡上円滑化傾斜装置<図7>、登録第3200421号)、全国の河川に簡易式魚道を広めたいと考えている。

ポスターセッションでは、非常に多くの方が清流会のブースの前に集まっており、市民の魚道への関心の高さが伺えた。



図6 ポスターセッションの様子



図7 魚類遡上円滑化傾斜装置

・ワークショップへの参加を通して

今回のワークショップにおいては、沢山の団体が各々の活動フィールドの川について様々なテーマを持ち寄って発表や議論を交わし、たいへん勉強になった。子供が遊び学ぶ場であり、流域の要であり、生態系の大切な一部であり、流通のためのインフラであり、人間の生活の長い歴史の象徴であり、時に災害として牙をむくこともあり、そして何より人々をつなぐ、といった川のもつ多面的な特性を改めて認識することができた。

私達筑波大学のプロジェクトチームも、気軽に足を運びづらい九州で、ワークショップや交流会を通じて様々な団体に活動を知ってもらい、フィードバックをいただけたことは大変ありがたかった。今回得ることができた多様な視点や新たなつながりを今後のプロジェクト活動に活かし、さらなる成果を生み出すよう頑張っていきたい。なお、次回の「第16回九州「川」のワークショップ」は福岡県の遠賀川で開催される予定である。

・おわりに

プロジェクトチームは、今回の「水辺からのまちおこし広場」および「九州「川」のワークショップ in 諫早」を終え、今回いただいた意見をもとに、大学内でさらなる検討を行っていく予定である。

また、今回の訪問では、東彼杵町のまちづくり課の皆様、東彼杵町議会の皆様、東彼杵清流会の池田健一さん、県北グリーンクラブの宮川弘さん、『九州「川」のワークショップ in 諫早』実行委員の皆様、その他町内外の多くの方々にご協力をいただきました。ここに記して感謝を申し上げます。

(筑波大学白川研究室東彼杵プロジェクトチーム：

川畑遼介・坂本貴啓・鴨志田徳高・小沼良輔・

金子貴洋・工藤拓哉・高鳥圭亮・日比野愛・

前田紗希・山田怜奈・白川直樹)

(訪問者：川畑、坂本、鴨志田、金子、工藤、高鳥、白川)

☆お知らせ

「東彼杵なつやすみ」のCDができました。YoutubeにPVがありますのでぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=DbVmDN309jM>

作詞：坂本貴啓 作曲：向田隼 編曲：有木吾郎

企画：彼杵おもしろ河川団

製作：筑波大学白川研究室『川と人』ゼミ



「東彼杵なつやすみ」CDラベル

会議・イベント案内 (2015年12月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■グリーンレジリエンスシンポジウム

- 日時：2015年12月1日(火) 15:00~17:30
- 主催：一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会
- 場所：三井住友海上火災保険(株)駿河台ビル(千代田区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2277.html>

■第12回ふくおか水もり自慢 in 遠賀川

- 日時：2015年12月6日(日) 10:00~
- 主催：第12回ふくおか水もり自慢! In 遠賀川実行委員会
- 場所：遠賀川地域防災施設 遠賀川水辺館(福岡県直方市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2273.html>

■シンポジウム「水都史」

- 日時：2015年12月13日(日) 10:00~17:30
- 主催：都市史学会
- 場所：法政大学 市ヶ谷田町校舎(東京都新宿区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2281.html>

■第3回流域管理と地域計画の連携方策に関するWS

- 日時：2015年12月15日(火) 14:00-17:00
- 主催：(公社)土木学会
- 場所：土木学会講堂(東京都新宿区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2275.html>

■第2回研究発表『三河川の水運の歴史』

- 日時：2016年1月23日(土) 12:30~16:00
- 主催：筑後川・矢部川・嘉瀬川流域史研究会
- 場所：筑後川防災施設「くるめウス」(福岡県久留米市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2279.html>

■第十一回「外来魚情報交換会」

- 日時：2016年2月6日(土)~7(日)
- 主催：琵琶湖を戻す会
- 場所：滋賀県草津市立まちづくりセンター(滋賀県草津市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2252.html>

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2016.2.8-12(メルボルン/オーストラリア) 11th Int. Symposium on Ecohydraulics
- 2016.6.5-9(京都) Int. Conference on Water Resources and Environment Research
- 2016.6.28-7.1(リヨン/フランス) 9th Int. Conference NOVATECH
- 2016.8.29-31(コロンボ/スリランカ) 20th Cong. of IAHR Asia Pacific Division
- 2016.9.12-14(ニューデリー/インド) 19th International Riversymposium
- 2016.9.19-22(Stuttgart/ドイツ) 13th Int. Sympo. on River Sedimentation

書籍等の紹介 *Publications*

■ できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015.3 発行)

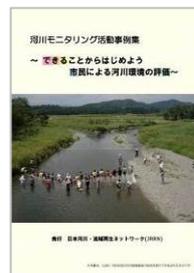
- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・デザイン：本間由佳 鶴川女子短期大学
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で協働制作しました。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～ (2014.3 発行)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

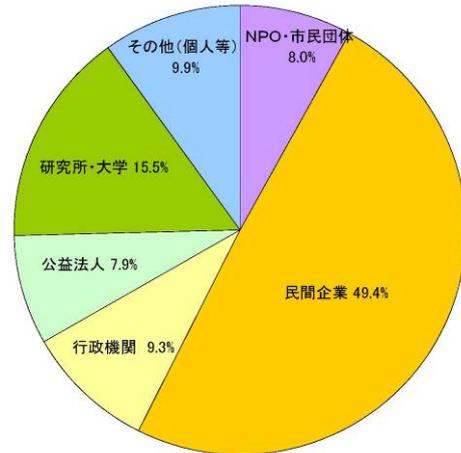
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2015年11月30日時点の個人会員構成

(個人会員数：722名、団体会員数：56団体)

※11月の新規入会数：個人会員3、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。



建設技術研究所
国土文化研究所